BTC 後援会たより
第2号 2017年11月

BTC創立70周年に向けて
“インマヌエルの集いの場”に

会長　中山朝雄
（イムマヌエル中目黒教会）

「私の祈りがあなたの御前に届きますように。どうか、あなたの耳を私の叫びに傾けて下さい。」詩篇八八・2

「BTC後援会たより」第2号を皆様にお届けできますこと、心より感謝いたします。

BTC後援会は、3月の第72次年会で設立総会礼拝をもって発足いたしました。その活動として、各教会より推薦された教会世話人の皆様が、BTCと教会のパイプ役となってBTCのために、また献身者が与えられるように教会員の皆様と共に祈りを始めていただいております。

聖宣神学院は1949年5月に設立され、2年後の2019年に創立70周年を迎えます。70周年を迎えるにあたって、BTCキャンパスが更に用いられるように、後援会としても出来る支援をさせていただきたく願っております。

先般よりBTCキャンパスの施設について検討するBTCメンテナンス委員会に後援会より役員3名が加わり長期的な視点に立って、また信徒目線でBTCキャンパスの姿を検討させていただいております。

私の若いころは、このBTCで年会や総会また、林間聖会が開かれ全国の信徒の皆様が藤が丘の森に集う場所として、信徒にとって大変身近な存在でした。しかし、キャパシティや宿泊の問題等と、牧師・信徒の高齢化に伴い年々使用されなくなり、信徒にとってBTCは遠い存在となってまいりました。最近はそのギャップを埋めるべくBTCオープンキャンパスやリトリート等の集会が開催され、多くの信徒が参加するようになっております。

BTCをもう一度全国の先生・信徒が集うことのできる“インマヌエルの集いの場”として活用できないでしょうか。具体的な活用方法として考えられるのは、①まず「聖と宣」を学ぶ大切な神学校として、若い献身者にも受け入れられる様に更なる整備を行う。②毎年、定例的に年会や総会の教団行事に活用できるように整備をする。③各教会で行われているCSキャンプ、とにキャン、YS、YSB等の集会として活用できるように整備する。そして、④将来的には、退職後の先生方の福利厚生施設としても活用できるように整備する。その他にも様々な活用方法はあると思いますが、BTCキャンパスがよりインマヌエルの信徒に身近な存在となることによって献身者がおこされることに繋がるのではないかと期待しております。

本館　さらなる活用を期待して

BTC後援会は、BTCのために、また献身者が与えられるように、全国の世話人をはじめ信徒の皆様と共に祈り続けてまいりますが、70周年を迎えるにあたり、祈りと共に実践する後援会へと活動を広げていきたく願っております。

今後もお祈りと共に後援会の活動のために、ご支援よろしくお願い申し上げます。

◆日々お祈りください

①献身に導かれる方が与えられるように。特に、若い方々がさらに加えられるように。

②神学生の学びと訓練が祝されるように。

③教師、職員、スタッフが恵みによって用いられるように。

④二〇一八年に予定している第2期工事のために。

⑤二〇一九年の創立70周年の記念行事のために。整ったキャンパスに同窓生をお迎えできるように。

⑥今後のキャンパス活用に主の導きがあるように。

⑦神学院の必要が豊かに満たされるように。

⑧後援会役員、推進委員、世話人が尊く用いられるように。

目次

会長巻頭言 1
祈りの課題 1
奉仕者インタビュー 2
世話人ひと言メッセージ 3
世話人ひと言メッセージ（続）4
教師陣に、聞く 5
通学生として学ぶ 5
推進委員からひと言 6
院長コラム 6
編集後記 6

イムマヌエル
聖宣神学院後援会
http://btc.jpn.com/